

令和五年度東京都立翔陽高等学校第十七回卒業式 校長式辞

本日ここに、令和五年度東京都立翔陽高等学校第十七回卒業式を挙げるにあたり、ご多用中にもかかわらず、来賓の皆様をはじめ、多数の保護者の皆様のご臨席を賜りましたことを、心よりお礼申し上げます。保護者の皆様には、立派に成長されたお子様の晴れの姿をご覧になり、今日までの日々を思い返し胸を熱くされているのではないかと拝察いたします。お子様のご卒業を心からお慶び申し上げます。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今、皆さんの胸には、どのような思いが去来しているでしょうか。それぞれ思い浮かべるシーンは皆さん一人ひとり異なっていると思いますが、そこには皆さんに寄り添う、誰かの姿がきっとあったはずです。

歌手の中島みゆきさんに、人と人との出会いを、人知の及ばぬ、必然の「めぐり合わせ」として歌った『糸』という楽曲があります。こんな歌詞で始まります。

「なぜ めぐり逢うのかを 私たちは なにも知らない
いつ めぐり逢うのかを 私たちは いつも知らない」

この曲は、男女の人生を二本の糸に喩えながら、その出会いをテーマにしたものですが、高校卒業をこの日この場所でともに迎えることになった皆さんの出会いもまた、まさに必然の奇跡であると言えるのではないのでしょうか。振り返れば皆さんには本校入学までにも、ずっとつながった一本の「糸」のようなそれぞれの「物語」があり、入学してからもその「糸」をさらに紡ぎながら、今日の日を迎えました。本校でめぐり逢った193名、つまり193本の糸は、縦横に整然と織りなされるというよりは、むしろ絡み合い、もつれ合い、重なり合っ、しかしそうでありながら、ついには唯一無二の美しい模様を今日ここに織り上げました。またこの曲には、このような歌詞もあります。

「なぜ生きていくのかを 迷った日の跡のささくれ
夢追いかけて走って ころんだ日の跡のささくれ」

絡み合う人間模様の中で悩み、立ち止まり、瞳を閉じたそのとき、そっと心の「ささくれ」を繕ってくれた友、家族、そして先生方。いつも誰かがいてくれたおかげで、本校で過ごした時間の厚みが増したことを、今皆さんは感じているのではないのでしょうか。

卒業は別れでもあります、新たな日々に向けたスタートでもあります。そんな人生の区切りを迎えた人の背中を押してくれる、ポジティブな卒業ソングを紹介します。それは、ゆずの「栄光の架橋」です。

この曲はオリンピックの公式テーマソングともなった曲で、アスリートを応援するメッセージソングのイメージが強く、プロ野球選手やボクサーの入場曲にも採用されています。こんな歌詞です。

「誰にも見せない涙があった 人知れず流した涙があった
決して平らな道ではなかった けれど確かに歩んで来た道だ
あの時思い描いた夢の途中で今も
何度も何度もあきらめかけた夢の途中
いくつもの日々を越えて 辿り着いた今がある
だからもう迷わずに進めばいい
栄光の架橋へと…」

目指す目標が高ければ高いほど、苦しくてつらいもの。それでも諦めずに努力を続けることで、自分だけの栄光をつかむことができるという、ストレートな応援ソングです。

卒業生の皆さんは一人ひとりの時間を持ち、その一部を共有する場として、この翔陽高校を選びました。そして時間の「糸」が絡み合う中で、自ら考え、自ら行動し、自らその結果を受け止めながら、「栄光の架橋」へ向けて、意味のある多くの「とき」を体験してきたはずです。例えば、ホームルーム。友達作りが苦手で人見知りのあなたに、先生が何気なく声を掛け、自分の居場所を作ってくれたとき。例えば部活動。チームをまとめるのに、一人、思い悩んでいたあなたに、仲間たちからの励ましのメール。明日も頑張って学校に行こうと、心の底から元気が湧いてきたあの日。皆さんが本校で一つひとつの物語を重ねるたびに、か細かったそれぞれの「糸」がしっかり丈夫に成長してきたのではないのでしょうか。今日の卒業式は、皆さん一人ひとりの物語の糸が

束ねられた大きな結び目です。それぞれの物語の糸は、今日で途切れるのでな博、皆で共有した「とき」を胸に刻み、「栄光の架け橋」へ向けて、ここからまた新たなそれぞれの物語が連綿と続いていくのです。

最後に皆さんにはなむけの言葉を贈ります。1952年に制作された映画「ライムライト」の中で、チャップリン扮する喜劇芸人が、生きることに失望した若いバレリーナに言った言葉です。

All it needs is courage, imagination, and a little dough. (人生に必要なもの、それは勇気と想像力、そして少しばかりのお金) a little dough の dough は本来、パン生地のことですが、ここではくだけた表現として「お金」の意味に使っています。わたしはこの dough は、たとえちっぽけなものでも、その人にとって意味のある経験だと解釈しています。皆さんのような聡明な人たちは、小さくても意味のある経験を積み重ね、それを糧として、勇気と想像力で自分を大きく飛躍させることができるはずです。そうした機会にめぐり合うことがあれば、尻込みすることなく、果敢に挑戦してください。皆さんの人生に幸多かれと祈ります。

最後になりましたが、あらためて保護者の皆様、お子様の御卒業、誠におめでとうございます。お子様は、人生の中で心身の変化が最も激しいときである高校での三年間を終え、このように身体も心も立派に成長され、今、学び舎を巣立とうとしています。さぞかし感無量のこととご拝察申し上げます。またこれまでいただいた本校へのご支援とご協力に対し、この場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

そして卒業生の皆さんに最後に一つお願いがあります。今日、自宅に戻ったら、ご家族の方に一言、「今までありがとうございます」と伝えてください。

結びに、在校生、教職員、保護者の皆様と共に、卒業生の皆さんの「輝く未来」にエールを贈り、式辞いたします。

令和六年三月二日

東京都立翔陽高等学校長 博田 英明